

赤十字の日 赤みえ

2018. 1



赤十字活動にご支援いただきありがとうございます

日本赤十字社三重県支部は、「人道」を基本理念として、国の内外において活動を展開しています。この活動の基盤となるものが、赤十字運動の趣旨にご理解いただく皆さまからお寄せいただく貴重な活動資金です。

今年度もたくさんの皆さまのご支援に支えられてさまざまな活動を行うことができました。

当支部では、県民の皆さまの生命と健康を守るため、地域に根差したさまざまな活動を行っており、災害が発生すると、自治体や地域住民の皆さまと協力して救護活動を展開するなど、その活動は地域と密接な関わりを持っています。

こうした活動を支えていただくため、一人でも多くの皆さまにご賛同いただき、継続的なご支援をいただけるよう努めてまいりますので、今後とも引き続きご理解とご協力をお願いします。



6,000人以上の赤十字ボランティアが 県内各地で活躍中

日赤三重県支部では6,238人の赤十字ボランティアが在籍しており、日々県内各地で活動しています。

赤十字奉仕団の組織は大きく次の三つがあります。①地域に根ざした「地域赤十字奉仕団」、②若者を中心とした「青年赤十字奉仕団」、③特定の技術・能力（点訳、アマチュア無線、介護など）を活かした「特殊赤十字奉仕団」 いずれの奉仕団も、各団の強みを活かしながら、赤十字の理念に基づいた活動を行っています。

地域奉仕団



地域に根ざした赤十字活動

日赤三重県支部では、「地域奉仕団」が県内 14 市町に組織されており、5,500 名以上の団員が県内各地で活躍しています。

普段は、駅前の花壇の整備、災害にあった被災者のための義援金募集活動、高齢者の見守りなどを行っています。また、地域で防災訓練が実施されるときには炊き出しを行ったり、日頃から災害に備えています。

三重県では地域奉仕団未結成地域がありますので、今後、赤十字が県民の皆様にとってより身近な存在となるよう組織づくりに努めていきます。

日赤三重県支部点訳奉仕団



目の不自由な方の支えとなるように

日赤三重県支部点訳奉仕団は、県内各地に 10 の点訳友の会を組織しています。視覚障がいの方が日常生活を快適に送れるよう、電車の時刻表やゴミの収集カレンダーから教科書や楽譜などの専門書に至るまで点

訳しています。また、昭和 31 年の発足以来、平成 29 年 3 月 31 日の時点で累計 46,042 冊の図書を点訳しました。

平成 29 年 10 月には日赤三重県支部点訳奉仕団の団員が、県内の青少年赤十字に加盟している小学校 2 校を訪問し、点字の出前授業を行いました。普段、点字に触れる機会が少ない子どもたちからは「面白かった」、「もっと点字を勉強したい」という感想が寄せられました。

三重県赤十字安全奉仕団



救急法・水上安全法で

人間のいのちと健康を守ります

三重県赤十字安全奉仕団は、救急法指導員と水上安全法指導員の総勢 89 名で構成されており、自治会や学校などで開催される赤十字救急法短期講習

会や、赤十字救急法養成講習を行っています。また、救急法の指導をするだけでなく、自らの知識・技術の研鑽のため、研修会を年 2 回実施しています。

さらに、平成 29 年度は二十数年ぶりとなる「赤十字救急法競技大会」を、支部との共催で実施します。この競技大会を通じて、多くの皆さまの赤十字事業への理解が深まり、事故や災害時にお互いが助け合いながら活動できる知識と技術が向上されることを団員一同期待しています。

三重県青年赤十字奉仕団



「苦しんでいる人を救いたい。」

九州豪雨災害募金活動を実施

平成 29 年 7 月 5 日からの断続的な大雨により九州北部に甚大な被害がもたらされました。このような状況を受け、青年奉仕団は 8 月 20 日に津市内のスーパーにて募金活動を実施。

昼時の忙しい時間帯にも関わらず、多くの方が足を止めてくださり、九州豪雨災害の復興のため義援金にご協力いただきました。

青年赤十字奉仕団は、総勢 21 名という少数で活動していますが、募金活動の他にも青少年赤十字活動の支援や地域のイベントで子どもたちに赤十字について伝えるなど幅広く活動しています。青年赤十字奉仕団は、若い力で赤十字を盛り上げていきます！！

台風 21 号三重県災害における三重県支部の 活動状況及び義援金の受付について

平成 29 年 10 月 22 日からの台風 21 号による被害により県内各地で甚大な被害をもたらしました。そこで三重県支部におきまして、玉城町・伊勢市・松阪市・紀北町に計 732 個の緊急セットを配布いたしました。

また、10 月 31 日から日本赤十字社三重県支部では『台風 21 号三重県災害義援金』の受付を開始しており、多くの皆さまからご協力をいただいています。

お寄せいただいた義援金は、三重県に設置された義援金配分委員会を通じ、全額を被災された皆様にお届けいたします。



(伊勢市への緊急セット配布)

てのひら奉仕団



地域の高齢者が健やかに過ごせるように

てのひら奉仕団は、桑名てのひら奉仕団、いなべてのひら奉仕団、伊勢てのひら奉仕団の3団があります。赤十字家庭看護法講習を修了した団員が介護の知識を活かし、各地域の老人福祉施設の慰問や一人暮らしの老人の生活の援助をしています。また、伊勢てのひら奉仕団は、地元の伊勢赤十字病院において患者さんのご案内や、入院生活が少しでも快適になるように病棟へ生け花を飾っています。

日々の高齢者への支援にとどまらず、伊勢赤十字病院まつりや地域のイベントへ参加するなど赤十字活動全体を盛り上げています。

日赤三重県支部救護ボランティア



災害時に備え、特殊奉仕団が結集・連携します

日赤三重県支部救護ボランティアは、総勢100名の団員が活動しています。県内外での災害に備えて、年に一度、救護ボランティアが一堂に会し研修会を開催しています。研修会は、団員自身が講師となって災害時の傷病者の手当て、ロープワーク、無線通信について学び合います。

災害時には特殊奉仕団が結集し、被災者を支援するため、日頃からさらなる連携体制の強化を図っていきます。

三重県赤十字たすけあい奉仕団



「救いたい」という心を三重から世界へ

日赤ではNHK海外たすけあいキャンペーンを毎年12月1日から25日まで実施しています。バザー用品を市町のイベントで販売し、売り上げをすべて赤十字の国際活動に寄付をしています。

県民の皆様のご協力のもと、世界で苦しんでいる人の力になれるよう地域で活動していきます。

※各ご家庭で不要なバザーに出品できるギフト製品を募集しています。詳しくは三重県支部までお問い合わせください。

日赤三重無線奉仕団



災害時の通信を支える

日赤三重無線奉仕団は、アマチュア無線の技術を活かし、災害時の情報収集活動に日々備えています。毎年、県の総合防災訓練に参加しており、無線通信訓練に取り組んでいます。訓練は、平成29年11月5日に伊賀市を中心に実施され、総勢16名の団員が参加しました。

また、日頃からミーティングを実施するなどコミュニケーションも活発にとりながら、災害時に備えて団員同士の結束を図っています。

今後も日赤三重無線奉仕団は、災害時の縁の下での力持ちとなるよう無線通信に励んでいきます。

三重県青少年赤十字賛助奉仕団



青少年赤十字活動発展のために尽力

三重県青少年赤十字賛助奉仕団は、小・中・高等学校等を退職されたOBの教員によって組織されています。年2回、総会を実施し、青少年赤十字の発展のために協議を重ねています。毎年8月に実施されるリーダーシップ・トレーニング・センター※では、子どもたちの指導にあたります。

さらに、毎年12月に実施される「NHK海外たすけあい」キャンペーンでは救援金の受付や募金活動を担当し、赤十字国際活動を地域で支えています。

※ 集団生活を伴う学習活動の場で、リーダーとしての必要な自主・自律の精神を身につけ、赤十字や青少年赤十字に関する知識や技術への理解を深め、生活態度全般にわたっての学びを深めます。

日本赤十字社三重県支部では、赤十字ボランティアを募集しております。

詳しくは裏面の連絡先にお問い合わせください。

備え

日本赤十字社第3ブロック支部合同災害救護訓練を実施

平成29年11月12日(日)に日本赤十字社第3ブロック各県支部合同災害救護訓練が石川県で実施されました。

この訓練は、今後発生が危惧される大規模災害に備え、日本赤十字社第3ブロック各県支部の協力体制のもと、円滑な救護活動が展開できるよう訓練するとともに、各県支部救護班の知識・技術の向上を図ることを目的として実施しています。



三重県からも伊勢赤十字病院の救護班(医師1名、看護師3名、主事2名)と三重県支部職員3名が参加し、各県との連携体制の強化を図りました。

三重県で大規模な災害が発生した際も、他県支部救護班との密な連携により効果的な救護活動が出来るよう体制を整備していきます。



伊勢日赤からバングラデシュへ 看護師を派遣



平成29年10月17日、伊勢赤十字病院にてバングラデシュ南部避難民救援事業に派遣する看護師の出発式が行われました。

ミャンマーからの避難民が急増するバングラデシュでは、物資配給や医療支援が追いつかない状況となっています。日本赤十字社が国際赤十字の要請により派遣した先遣隊、

第1班に続き、伊勢赤十字病院の藤田了子看護師は第2班（10月20日～11月30日）、東恵理看護師長は第3班（11月24日～1月11日）の一員として現地での国際救援活動を行いました。

藤田看護師は、看護師となった当初から国際救援活動への参加を志し、英語や危機管理等を学んでおり、初めての救援活動に不安を覗かせつつも、「避難民の方々の助けとなるよう頑張りたい」と意気込みを語りました。また、谷副院長兼看護部長からは、激励の言葉と花束、健康を祈念して伊勢神宮のお守りが手渡されました。



© 日本赤十字社



高校生を中心とした献血セミナーを実施

三重県赤十字血液センターでは、将来の輸血医療を支えてくれる若い世代を対象とした献血セミナーを実施しています。高等学校、専門学校への訪問に加え、血液センター見学会等で小・中学生も含めた年間1万人を超える学生の皆さんに献血や輸血について学んでいただいています。セミナーを受講して献血の必要性を理解され、学校での献血に参加したり、下校時や休日に献血ルームまで来ていただく学生さんもみえます。地道な広報活動を展開してきたことにより、着実に若年層の献血者が増えてきました。献血を未来に繋いでいくため、これからも若い世代に向けた献血啓発を続けていきます。



夏休み献血親子教室の様子



献血セミナーの様子



日本赤十字社 三重県支部
Japanese Red Cross Society

日赤みえ 発行元/日本赤十字社三重県支部

〒514-0004 津市栄町1丁目891番地 TEL 059-227-4145 FAX 059-227-6245
<http://www.ztv.ne.jp/nissekim/>